《 母 校 通 信 》　　大　健　闘

第 103 回全国高校野球選手権福島大会で、相馬高校は、ベスト４をかけて、福島商業と対戦、２点リードの９回裏、２アウト後、３点を失い、７−８で惜しくも逆転サヨナラ負け、涙をのんだ。

相馬 土壇場で涙

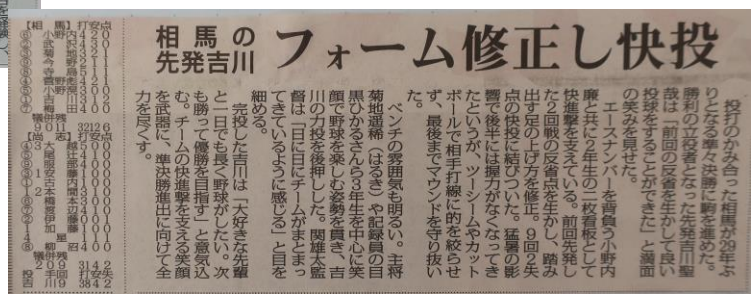
29年ぶりの４強ならず

相馬２年生エース 小野内 力尽きる

相馬29年ぶり８強

尚志７回意地の１点

しかし、４回戦では、シード校磐城を破った尚志高校を７−２で一蹴、「29 年振り８強」の見出しが紙面に躍った。



相馬の先発吉川 フォーム修正し快投

29 年前、平成４年の夏の大会は、ずっとスタンドから相高を応援をしていた。息子が野球部員だった。準決勝は郡山高校に０−３で敗れ、ベスト４だった。

その前の年、30 年前の平成３年夏の大会の初戦も忘れられない。いわき平球場で、第一シードの日大東北と当たった。向こうは相手が相馬なのでエースを温存してきた。そしたら何と７−６で第一シードに勝ってしまったのである。一塁側だった相高応援席は正に歓喜に包まれた。急遽、宿泊費などを球場の外で保護者等から徴収した。この年もベスト８まで行ったのである。

準優勝！

更に遡ると、昭和 32（1957）年の夏の大会では、決勝まで勝ち上がった。内郷高校に敗れたものの準優勝である。当時、甲子園出場への切符は、福島、宮城、山形の３県から一校のみの厳しい時代であった。福島県代表として東北大会（３県）に出場、山形商業に敗れ、甲子園への夢は断たれた。私は中学３年生。駒ケ嶺中学校の先輩、菅野和郎さんが、捕手でキャプテンで４番、しかも生徒会長と聞いていたので、二の丸球場の練習試合を見に行った思い出がある。

（７月 27 日　写真及び記事「福島民報」新聞より転載　文責　村山）